

「信じる者になりなさい。」 ヨハネ 20 章 24～31 節

トマスが、「私は、その手に釘の跡を見て、釘の跡に指を入れ、その脇腹に手を入れてみなければ、決して信じません」と言ったのも、よく理解できます。「主が私にこう言われた」と言う人がいますが、それは実際に語りかけられたのでしょうか。心に示されたのでしょうか。

私は、実際に主の幻を見ました。聖霊の語りかけを聖霊のバプテスマを受けた時に聞きました。幻も見ました。それでも、「主の名をみだりに口にしてはならない。主は、主の名をみだりに口にする者を罰せずにはおかない。」(出エ20・3)とあるので、自分の行為の正当化に主の名を決して使わないようにしています。

判断力や知性からしたら、死んだ人がよみがえり、生きて動いているということを感じる人は、まともではありません。23億人のクリスチヤンのうち、何人がそれを信じているのでしょうか。

異端かどうかを確認するためには、①三位一体の教義、②イエスの復活信仰、③イエスの十字架による贖罪、④聖書の十全霊感、などの教理の確率が必要です。

クリスチャンかどうかの確認には、洗礼を受けているかどうか、どこ教会か、などと聞かれます。しかし、それでも神の国に入れるかどうかの保証はありません。

イエス様を救い主と信じていると言う人が全て、信仰深く歩んでいるわけではありません。悪さをする人もいるし、嘘やごまかしをする人もいれば、礼拝も祈りもしていない人もいます。その人たちを、信仰者かどうか、他人が吟味する必要はないのですが、自分では確認しておく必要があります。ところが、信仰を深く考えないで、「信じている」と言う人もいます。「羊飼いが羊をやぎからより分けるように」(マタイ25・32)、神は私たちの信仰を確認しますよ、と伝えても自分を吟味しない人がいます。救われていないのか、救われた後に墮落したのか、性格が悪いだけなのか、或いは信仰者を装っているのか、わからないものです。

トマスは、信じられないものは、「信じません」と言い、主イエスに「あなたの指をここに当てて、わたしの手を見なさい。手を伸ばして、わたしの脇腹に入れなさい。信じない者ではなく、信じる者になりなさい。」と諭されました。信じられないことと、信じられることを確認しなければ、信じるようにはなれません。信じていないことを、信じている

と言ってしまうと、その後の信仰生活がややふやになってきます。

私は、自分の聖霊のバプテスマが、自己催眠のようなものかどうか確認したくて、他の人に手を置いた時、自分から力が出ていくのを感じ、彼がその時、聖霊のバプテスマを受けたのを見て、安心しました。

永遠のいのちの確信がなく、イメージとして銃口を自分の頭に向け、2年後に恐れがなくなりました。その後、やぐざに襲われた時に、逆に脅すことができたのも、その経験があったからです。

十字架に掛けられたイエス様の幻を見て、試練や困難から逃れようとする自我を恥じました。

信仰には段階があります。そして、サタンの惑わしや誘惑、また自らの弱さや罪もあります。一度、イエス様を救い主として信じたからといって、そのままスムーズに神の国に導かれるということは殆どありません。「天路歷程」という本にあるように、多くの試練と誘惑を乗り越えてしか、天にはいけないのです。

「疑い深いトマス」と呼ばれますが、私はトマスの疑問は壮年として当然なものだと思います。トマスは、イエス様に会ったとたんに、「私の主、私の神よ。」と礼拝しています。他の弟子たちも、最初は信じられなかったのです。信者として、信じきれないのに、信じているふりをするならば、信仰は必ず揺れ動きます。トマスは、その後、インドに渡って布教し、殉教したとされています。

復活を信じるからこそ、その人の信仰の真実さを示します。殆どの人は、「死者の復活のことを聞くと、ある人たちはあざ笑ったが、ほかの人は『そのことについては、もう一度聞くことにしよう』と言った。」(使徒17・32)。と相手にしないのです。しかし、「使徒たちは、主イエスの復活を大きな力をもって証しし、大きな恵みが彼ら全員の上にあった。」(使徒4・33)。「クリストがよみがえらなかったとしたら、私たちの宣教は空しく、あなたがたの信仰も空しいものとなります。」(1コリント15・14)。

信仰は趣味や教養ではありません。人生の成否が掛かった命がけのものです。復活を信じるならば、病も死も恐れることはありません。神は、信仰者におさなりのものを求めてはいません。復活を信じるならば、自分の考えも主張も価値のないものになるのです。

1. 信仰に生きるキリストの弟子の養成

主の弟子は状況に左右されず聖霊に聞き従い、神を信じ人を信じて人々の救いと解放をもたらす。十字架に死んで神と共に生きるとは、自分と人々の罪からくる咎を覚悟し信仰と希望と愛とを持って福音の祝福の中に生きることである。キリストの弟子の養成こそ教会の使命である。

2. 真理と祈りと讃美に満ちた信仰生活の指導

聖書の教え、真理は人を自由にする。祈りは問題や悩みを解決し、神の御心を確認する。讃美は癒しと喜びと力を与える。教会はそれらを教え指導し、互いの交わりの中で模範を造り出していく。

3. キリストを頭として愛によって結び合わされた共同体の形成

教会には多種多様な人々が神によってこの世から召し出されてくる。この信者を整え、神への奉仕という使命を果たすように導くには、キリストの弟子として十字架を負い主に従う指導者層が確立されなければならない。整えられ愛し合い一致した教会こそ神の栄光が現され成長する。

4. 隣人に対する愛に基づいた執り成しと伝道の実践

神を愛する人は人をも愛し、行いを伴う信仰を持つ。真理を知らず罪と咎によって苦しんでいる人々を愛し、執り成し、福音を伝えることによってこそクリスチャンは成長し、祝福される。

5. 地域と社会に貢献する魅力的な教会員の歩みと家族形成

教会と教会員の活動・事業・啓発運動を展開し、社会に影響を与えながら、同時に愛し合う家族を形成し、接する人々に福音を現していくことが、日本のリバイバルに必要であると私たちは信じる。

今週の聖書

ヨハネ 20:24 十二弟子の一人で、デドモと呼ばれるトマスは、イエスが来られたとき、彼らと一緒にいなかった。

20:25 そこで、ほかの弟子たちは彼に「私たちは主を見た」と言った。しかし、トマスは彼らに「私は、その手に釘の跡を見て、釘の跡に指を入れ、その脇腹に手を入れてみなければ、決して信じません」と言った。

20:26 八日後、弟子たちは再び家の中におり、トマスも彼らと一緒にいた。戸には鍵がかけられていたが、イエスがやって来て、彼らの真ん中に立ち、「平安があなたがたにあるように」と言われた。

20:27 それから、トマスに言われた。「あなたの指をここに当てて、わたしの手を見なさい。手を伸ばして、わたしの脇腹に入れなさい。信じない者ではなく、信じる者になりなさい。」

20:28 トマスはイエスに答えた。「私の主、私の神よ。」

20:29 イエスは彼に言われた。「あなたはわたしを見たから信じたのですか。見ないで信じる人たちは幸いです。」

20:30 イエスは弟子たちの前で、ほかにも多くのしるしを行われたが、それらはこの書には書かれていない。

20:31 これらのことが書かれたのは、イエスが神の子キリストであることを、あなたがたが信じるためであり、また信じて、イエスの名によっていのちを得るためである。

Joh 20:24 Now Thomas, called the Twin, one of the twelve, was not with them when Jesus came.

20:25 The other disciples therefore said to him, "We have seen the Lord." So he said to them, "Unless I see in His hands the print of the nails, and put my finger into the print of the nails, and put my hand into His side, I will not believe."

20:26 And after eight days His disciples were again inside, and Thomas with them. Jesus came, the doors being shut, and stood in the midst, and said, "Peace to you!"

20:27 Then He said to Thomas, "Reach your finger here, and look at My hands; and reach your hand here, and put it into My side. Do not be unbelieving, but believing."

20:28 And Thomas answered and said to Him, "My Lord and my God!"

20:29 Jesus said to him, "Thomas, because you have seen Me, you have believed. Blessed are those who have not seen and yet have believed."

20:30 And truly Jesus did many other signs in the presence of His disciples, which are not written in this book;

20:31 but these are written that you may believe that Jesus is the Christ, the Son of God, and that believing you may have life in His name.